

当別町の概要

◆ 概観



「当別町章」

当別町は北海道最大の都市札幌市と隣接し、札幌都心部からJRで約35分、車で約45分の札幌圏域に位置しています。明治4年、仙台藩岩出山の領主・伊達邦直公が家臣共々移住し、苦難の開拓の歴史が始まりました。人々の開拓の努力は、明治35年頃には札幌支庁管内(当時)で最も豊かな農村へと発展し、農業を基幹産業とした本町の礎が築かれました。現在では、管内有数の米の生産量を誇っています。

また、切り花の生産が盛んで、道内屈指の生産額となっています。近年は、札幌市や江別市という産業集積地の隣地であり、石狩湾新港と新千歳空港とを結ぶ交通の要衝であること、昭和63年の札幌大橋開通やJR学園都市線の増便などから宅地造成がなされ、札幌近郊の田園都市として発展しています。国道337号沿いには、平成29年9月に「北欧の風 道の駅とうべつ」がオープンしました。さらに、風景が酷似していると言われるスウェーデン王国・レクサンド市との姉妹都市提携をメインとした積極的な国際交流の町として、大きな飛躍が期待されています。

◆ 町名の由来

当別はアイヌ語「トウベツ」(沼から来る川の意)からでたもの。

◆ 地勢・面積

総面積は422.86平方キロメートル。東西に26キロメートル、南北に47キロメートルに広がっています。

◆ 人口・世帯数 (令和5年4月1日現在)

15,304人、7,749世帯

◆ 町の木・花・鳥

木／白樺、花／カスミ草、鳥／フクロウ

◆ 主なイベント

夏至祭、北海道亜麻まつり in 当別、ナイトパーク、とうべつ花火大会、あそ雪の広場